

■高松凌雲 医師、社会事業家。戊辰戦争の箱館で敵味方無く治療して日本赤十字を、貧民救療で民間福祉を先駆した。
たかまつりょううん
・・・・1836＝ 筑後国御原郡古飯村(福岡県小郡市古飯)に庄屋高松虎之助直道の三男として生まれる。母は中村氏の出。
大塩平八郎乱1837＝ 1歳：

阿部正弘首座1845＝ 9歳：

農耕に従事し、

万次郎帰国・1852＝16歳：隣村の大庄屋秋山家から庄屋候補に推されて住み込むも、一生の仕事ならずと、退去し、
ペリー来航・1853＝17歳：
開国開港・・1854＝18歳：
安政大地震・1855＝19歳：久留米藩家老の養子となり、

武術を修め、漢書に親しんで小姓にもなったが、実父の厳格さと対照的なルーズさに嫌気、
五ヶ国条約・1858＝22歳：母が死去、
安政の大獄・1859＝23歳：出奔し、大坂を経て江戸に出、先に出奔していた兄の養家に寄食後、_医師石川桜所の食客生となる。
桜田門外変・1860＝24歳：
遣欧使節・・1861＝25歳：_石川の許しを得て、大坂で適塾に入門し、たちまち頭角を現すが、
生麦事件・・1862＝26歳：_緒方洪庵が東上したため、その後横浜の英学所でヘボンに学ぶうち、
8月18日政変 1863＝27歳：

薩摩藩士密航1865＝29歳：_第二次長州征討で将軍家茂に随行した師桜所に従って上京、招かれて一橋家軍制所付表医師となり、
薩長同盟・・1866＝30歳：_*一橋慶喜が将軍となるのに伴って、幕府医官となり、奥詰医師に任命される。
大政奉還・・1867＝31歳：_徳川昭武のお付医師としてパリの万国博覧会に随行し、公務を解かれて医学を学ぶ機会を与えられた。
明治維新・・1868＝32歳：_*鳥羽・伏見の戦の報により帰国、榎本武揚の囑により箱(函)館の病院で医務を統轄した。五稜郭攻防戦の
負傷者を敵味方の区別なく手当をしたが、これはわが国における赤十字思想の初期の実践とされる。
版籍奉還・・1869＝33歳：_敗戦後、阿波(徳島)藩預けとなるも、
初の日刊新聞1870＝34歳：_解かれて静岡藩医となり、昭武の命で蝦夷地に随行後、自由を認められ、東京浅草に医院を開く。
学問のすすめ1872＝36歳：_経歴を知られ隆盛となる間、入牢となった師桜所の救済に奔走して実現、新政府軍医部への推挙は固辞。
明治6年政変 1873＝37歳：_榎本武揚らが出獄し、挨拶に行く一方、開拓使や諸県からの雇用希望も一切固辞、

西南戦争・・1877＝41歳：_西南戦争でも負傷者の治療にあたる。佐野常民らが創立した{博愛社}からの招聘も固辞する一方、
大久保暗殺・1878＝42歳：_下谷に移転拡大し鶯溪病院と名づけて診療に専念、下谷区の第五大区医師会会長に推されると、
沖縄県編入・1879＝43歳：_*会員とともに貧民の救療事業にあたる{同愛社}を創立、福地源一郎ら有力者の支援を受けるシステムによ
って、わが国近代民間社会事業の先駆となる。

明治14年政変1881＝45歳：

岩倉具視没・1883＝47歳：_ {同愛社}に明治天皇から金千円が下賜され、社会的にも認知され、発展して行く。

内閣発足・・1885＝49歳：父が死去。

帝国憲法発布1889＝53歳：
帝国議会始・1890＝54歳：
足尾鉾毒始・1891＝55歳：徳川慶喜夫人の乳癌手術。
大本教・・・・1892＝56歳：_*榎本武揚を{同愛社}社長に招いて、自らは退任。

日清戦争始・1894＝58歳：日清戦争勃発で、同愛社が出兵留守家族の無料診療を実施。

内務省地方衛生会委員、東京医会の役員などを歴任。

Bushidou・・1899＝63歳：

日露戦争終・1905＝69歳：

アララギ創刊・1908＝72歳：_榎本武揚死去で再び、{同愛社}社長となるが、

明治天皇没・1912＝76歳：この頃から_体調を崩し、

民本主義・・1916＝80歳：_没した。
著訳書に「保嬰新書」「虎列刺病論」「内科枢要」などがある。

吉村昭「夜明けの雷鳴」、「日本史を変えた人物200人」、「目でみる日本人物百科」、